

# 国際理解と平和について学ぶ & 提案文作りスタート！ ～第1回 学習会 活動報告～ 2024年10月6日(日)

滋賀県  
子ども県議会  
事務局発行 / No.6



地域体験活動を終え、子どもたちは県庁に戻り、午前中には特別講話を通じて国際理解と平和について学びました。ゲストスピーカーをお招きし、戦時中に人形を用いた交流をテーマにした「青い目の人形」のお話を伺いました。

## 「青い目の人形」と平和へのメッセージ

午前中は、平和学習を行いました。来年に戦後80周年を迎えるにあたり、ヴォーリズ学園の藤澤理事長から、平和についてのお話を伺いました。お話の中では、来年で戦後80年を迎えるのを前に、戦争中の時代背景や国際交流の意義について詳しくご紹介いただきました。戦時中に「青い目の人形」を通じて敵国であるアメリカと繋がり、交流が行われていた事実は、子どもたちにとって大きな驚きと学びになりました。また、第一次世界大戦中の「クリスマス休戦」のお話もあり、戦争という厳しい状況の中でも、人と人がつながることの可能性を感じる機会となりました。

## 子どもたちの感想

「人形を通じて敵国と繋がることができることに驚きました。」「時代背景によって人の考えや行動が変わることを改めて知りました。」「お話を聞いて戦争の恐ろしさを改めて感じました。」「戦争中でも交流を続けることの大切さを学びました。」「第一次世界大戦中のクリスマス休戦のお話がとても感動的でした。」

## まとめと今後に向けて

子どもたちは「青い目の人形」や「クリスマス休戦」のお話を通じて、戦争という悲惨な状況の中でも、人と人とのつながりや交流が生まれる可能性を学びました。戦争の恐ろしさを再認識する一方で、平和を築くために必要な努力や互いを理解し合うことの大切さを感じ取ったようです。単に歴史を学ぶだけでなく、未来を担う子どもたちが、自分たちに何ができるかを考えるきっかけになりました。この学びを活かし、滋賀県の未来や地域社会での活動に取り組んでいく姿勢がさらに期待されます。次回の活動では、また新たな発見と成長が見られることでしょう。



## 藤澤先生ご紹介

近江八幡にあるヴォーリズ学園の理事長 藤澤 俊樹 先生にお話をいただきました。藤澤先生は「ドールネットワーク滋賀」の代表も務められており、人形を通じた国際交流や平和のメッセージを広める活動を行っています。戦時中の「青い目の人形」から始まった歴史を引き継ぎ、現在では人形を媒介にした地域や国際間のつながりを深める取り組みが特徴です。今回は来年に戦後80年を迎えることから、子どもたちに国際理解と平和についてのお話をしていただきました。「テーマとして国際理解・平和・文化・人権多様性」です。



## お昼からは学習会で提案文作りスタート

午後からの学習会では、子どもたちが自分たちの興味や関心を付箋にまとめ、発表しました。その後、出てきた意見をテーマごとに整理し、カテゴライズしました。多くの意見が集まり、子どもたちの多様な視点や関心が見える有意義な時間となりました。今年のテーマになっているもの以外のものもありました。



次回は、今回出たテーマを基に、子どもたちが自分たちの興味に応じたチームに分かれます。各チームでさらに議論を深め、具体的な提案文作りに取り組む予定です。この活動を通じて、子どもたちが主体的に考え、行動する力を育むとともに、滋賀県の未来について考えるきっかけになればと思います。  
引き続き、子どもたちの成長と取り組みをどうぞお楽しみに！